

## 河北抄

筋力が低下する難病、脊髄性筋萎縮症を患う舟橋輪樹ちゃん(3)―仙台市―は外出時、リハビリの一環で車いすを使う。先日、輪樹ちゃんに会い、生き生きとした様子が印象に残った。

「弱い力でも車輪を回して自分で動けるから『できた』という経験が増え、誇らしげに乗っている」。母の茉悠さん(34)はそう言って笑った。車いすに乗ると輪樹ちゃんは表情が豊かになり「疲れた」と口にしたことは一切ないという。

輪樹ちゃんの体形や筋力に合わせ、座面の奥行きや背もたれの高さ、車輪の位置などをミリ単位で調整している。製造したジェー・シー・アイカスタム&モビリティ(宮城県宮古市)の担当者は「車いすが体に合えば能力を発揮でき、世界が広がり毎日が楽しくなる」と言う。

製造の工程は大半が手作業。大量生産は難しい。採算性は低いものの、親会社のジェー・シー・アイ(同)の大臣田和義社長は「ハンディがある人の自立をサポートする、会社の原点を大事にしたい」と語る。同社が誇るオーダーメイドの車いす作りは、46年の歩みを重ねる。